

研究論集

第11集

特集

I アジアの歴史と近代 (10)

「現代」と歴史学

河合文化教育研究所・北京大学歴史学系
第10回共同学術討論会 (2013年8月)

II 国際シンポジウム

近代における中国と世界の相互認知

— 内藤湖南と中国 —

(2013年9月)

2014年3月

河合文化教育研究所

〔特集〕 アジアの歴史と近代(10) 「現代」と歴史学

はしがき	山田伸吾	3
第10回日中共同学術討論会のテーマについて 「現代」と歴史学	山田伸吾	6
追悼と感謝 谷川道雄先生	王新生	9
谷川道雄先生を偲んで	山田伸吾	11
村史の構成と再構成 平谷北山地区の一部村落の歴史叙述を中心に	王元周 (ソロンガ 訳)	13
甲申政変と日本側の関与	八箇亮仁	23
元代に西域で屯田が行われた原因に関する試論	王宗磊 (ソロンガ 訳)	35
歴史学の視点から探るモンゴル文化変遷の原因及びその特徴	巴孟和 (ハスエリドン 訳)	47
中国の帝制時代の「君主専制」問題の再検討	張帆 (ソロンガ 訳)	55
進歩史観と現代	山田伸吾	61

〔特集〕 国際シンポジウム 近代における中国と世界の相互認知 内藤湖南と中国

小特集に寄せて	陶徳民	69
内藤湖南の歴史認識における哲学的背景	井上克人	71
内藤湖南と中国知識人との関係系譜 仰承から垂範への変奏	銭婉約 (呂超・井上克人 訳)	93
王羲之の僕役 熊希齡の顧問 1913年内藤湖南の自己定位から見たその対中国姿勢の特質	陶徳民	111
「支那人に代わって支那の為に考へる」再考	高木智見	127
『内藤湖南の国境領土論再考 二〇世紀初頭の清韓国境問題「間島問題」を通して』紹介	名和悦子	145
内藤史学の継承と発展についての初歩的考察 谷川道雄を中心として	胡宝華 (高木尚子 訳)	155
『諸葛武侯』と湖南史学の形成	呉偉明 (高木智見 訳)	169
内藤湖南の文化発展論 新しき精神と「分配」・「化成」	高木尚子	181

〔特別寄稿〕

村上春樹『ノルウェイの森』におけるアメリカン・ドラマツルギー	徐谷穹	205
杭嘉湖道王燧貪縦不法案 乾隆朝官僚汚職研究	谷口規矩雄	219

特集

アジアの歴史と近代(10)

「現代」と歴史学

河合文化教育研究所・北京大学歴史学系

第10回共同学術討論会(2013年8月)

河合文化教育研究所と北京大学歴史学系による共同学術討論会も、今回で10回目を迎えた。10回目という回数には特別の意味があるわけではないのだが、私たち河合文化教育研究所側には何かしらの節目という意識が働き、一応の「結び」にしようという気持ちがあったことは確かである。仮に11回目があるとしても、形態、内容、メンバーも換えて、新しいシンポジウムの第1回目として行いたいと考えていた。

さらに今回を「結び」の会としようとしたもう一つの大きな理由があった。それはこの討論会のそもそもの発案者であった谷川道雄主任研究員の体調がすぐれず、今回が最後の参加となる可能性があったことである。それで京都での開催にして、短時間であれ谷川氏に参加していただき会議の始めか最後に挨拶をお願いしていたのであるが、この会の開催前の6月7日に谷川氏はにわかに逝去され、最後の参加は叶わぬ望みとなってしまった。ここに改めて谷川氏の冥福をお祈りしたい。

ともあれ私たち(討論会実行委員会)は、10回目を節目と意識してそれに相応しい『現代』と歴史学』というやや大風呂敷と言ってよいが、しかし極めて現実的なテーマを設定したのである。このテーマについての問題意識についてはこの『論集』に収録されている「テーマの解説」を読んでいただければ、その概要はつかみ取れるはずである。ただ、今回の各発表者の内容がこのテーマをいかに深めているかどうかについては参加者及び読者の判断に委ねなければならない。しかし、主催者側の「手前味噌」かも知れないが、各発表はこれまで以上にテーマに則したものとなっていたようであり、最後の「総括討論」もかつてない盛り上がりを見せた

ように思われる。

さらに節目の会という意図から生じた特筆すべき形態的な特徴を挙げておかなければならない。それは中国側の参加者として、北京大学歴史系だけではなく、石河子大学、内蒙古師範大学に加わっていただいたことである。これは、この討論会の第7回が中国の新疆ウイグル自治区石河子市の石河子大学で開催され、また第9回が内モンゴル自治区フフホト市の内モンゴル師範大学で開催されたことに由来する。いずれの大学も北京大学と関係の深い大学で、その関係でこうした地での開催が可能となったのだが、討論会にはそれぞれの大学から発表者として参加していただいただけではなく、会議の運営について多大の便宜を図っていただいた。こうした厚誼に酬いるべく節目となる10回目に両大学からの参加をお願いした次第である。この勝手なお願いに快く応じていただいた両大学に深く感謝しなければならない。この場を借りてお礼申し上げたい。

谷川氏の突然の逝去も含めた様々な意味において、やはり10回目は節目の会となったように思われる。私たちは「結び」の会がそれなりに順調に進行したことに一応の満足を感じていたのだが、北京大学側からはこの討論会を持続させていくことへの強い要望が寄せられた。私たちもまた、現在の日中関係全体の「冷え込み」の状況を考えるにつけ民間レベルでの文化交流を持続させていくことについての意義を改めて確認しなければならないように思われる。どのような形でそれを持続させていくのかが今後の課題である。

谷川道雄先生をしのんで

北京大学教授 王 新生
河合文化教育研究所研究員 山田伸吾

研究発表および討論（総合司会：河合文化教育研究所研究員 金 貞義）

（司会：河合文化教育研究所研究員 金 貞義）

村史の構成と再構成 平谷北山地区の一部村落の歴史叙述を中心に
北京大学副教授 王 元周

・コメンテーター：河合文化教育研究所研究員 八 箇 亮 仁

甲申政変と日本側の関与

八 箇 亮 仁

・コメンテーター：王 元周

（司会：北京大学教授 王 新生）

元代に西域で屯田が行われた原因に関する試論

石河子大学副教授 王 宗 磊

・コメンテーター：河合文化教育研究所研究員 河 上 洋

歴史学の視点から探るモンゴル文化変遷の原因及びその特徴

内モンゴル師範大学教授 巴 孟 和

・コメンテーター：河合文化教育研究所研究員 金 瑛 二

（司会：内モンゴル大学副教授 ハスエリドン）

中国の帝制時代の「君主専制」問題の再検討

北京大学教授 張 帆

・コメンテーター：河合文化教育研究所研究員 山田伸吾

進歩史観と現代

山田伸吾

・コメンテーター：張 帆

全体討論（司会：河合文化教育研究所研究員 金 瑛二）

北京大学教授 王 新生，張 帆 副教授 王 元周
石河子大学副教授 王 宗磊，龍 開義
内モンゴル師範大学教授 巴 孟和
河合文化教育研究所研究員 山田伸吾，八箇亮仁